



プレスリリース

平成22年6月22日
内閣府
原子力政策担当室

アジア原子力協力フォーラム(FNCA) 「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」 第2回会合開催について

○内閣府及び原子力委員会は、韓国教育科学技術部と共同で、7月1日(木)～2日(金)に韓国・ソウル(グランド・ヒルトンホテル)にて「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」第2回会合を開催いたします。

○FNCAとは、我が国主導でアジア地域の原子力技術の平和的で安全な利用を進めるための協力フォーラムです。(ホームページ: <http://www.fnca.mext.go.jp/>)。FNCAでは、近年のアジアにおける原子力発電導入の動きを受け、6年前より、地域における原子力発電の役割や原子力発電の推進に関する協力について検討するパネルを開催してきました(第1フェーズ:3年間、第2フェーズ:2年間)。それに加えて昨年からは、原子力発電向け基盤整備について検討する第3フェーズ(3年間)を開始し、第1回会合では、原子力発電導入初期の全般にわたって、成功や失敗事例を含む実際の経験に基づく教訓を日本、中国、及び韓国から紹介し、メンバー国の間で共有されたところです。

○今次会合においては、第1回と同様に、原子力発電の新規導入を希望するFNCA参加国から導入計画策定に携わる政府機関や電力事業者を招聘し、①プロジェクトマネジメント、②現地業者育成及び調達、及び③核燃料サイクルと放射性廃棄物処分等の、原子力プラント導入初期段階に十分に検討しておくべき基盤整備の重点課題について、日中韓の実経験から得られた知見を紹介しつつ、各国及び国際協力の取組にどのように生かすかについての議論を行います。また、国立研究機関が基盤整備において果たすべき役割についても議論される予定です。

1. 主催 内閣府、原子力委員会、韓国教育科学技術部
2. 開催日時 平成22年7月1日(木)～2日(金)
3. 開催場所 韓国・ソウル(グランド・ヒルトンホテル)(地図別添)
4. 参加予定国及び機関
バングラデシュ、中国、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム、IAEA(国際原子力機関)

※日本からは尾本彰原子力委員会委員(本パネル会合の議長)、町末男FNCA日本コーディネーター等が出席する予定。

5. 報道関係者の傍聴及び取材

報道関係者の傍聴及び取材は7月1日(木)の開会セッション(9:00~9:30)のみ可能です。傍聴や取材、カメラ撮り等を希望される報道関係者は、傍聴席確保の必要上、開催前(6月28日(月))までに、以下の問い合わせ先にご氏名、ご所属及びご連絡先をご登録下さい。

なお、傍聴は1社につき原則1名(撮影のために入場する報道関係者は除く。)とし、会議室への入室の際には、登録された本人であることが確認できるものを提示していただくとともに、社名入り腕章を着用して下さい。

〔傍聴時の現地受付:グランド・ヒルトンホテル FNCA 事務局受付〕

(問い合わせ先)

内閣府政策統括官(科学技術政策・イノベーション担当)付 原子力担当
朝岡、山本、根塚、西村

電話: 03-3581-6690(直通)

03-5253-2111(内線44647)

FAX: 03-3581-9828

(別添 1)

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)
「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」
第2回会合プログラム案

平成22年7月1日(木)

プレスオープンは7月1日の
開会セッションのみ

● **セッション1(開会セッション 9:00~9:30)**

- 1. 開会挨拶 (シン・ゼシク 韓国・教育科学技術部原子力協力課長^{*1})
- 2. 歓迎挨拶 (尾本 彰 日本・原子力委員会委員^{*2})
- 3. 各国参加者紹介

*1,*2:シン課長、尾本委員は今次パネル会合
の共同議長を務める。

セッション2: 第11回コーディネーター会合の報告

セッション3: プロジェクトマネジメントに関する経験と教訓

セッション4: 現地業者育成及び調達に関する経験と教訓

セッション5: 新規導入国の活動の最新状況

平成22年7月2日(金)

セッション6: 円卓討議(1) 原子力発電導入のために原子力研究機関が果たすべき役割

セッション7: 円卓討議(2) 核燃料サイクル及び放射性廃棄物のための準備

セッション8: 今次パネル総括と第11回大臣級会合向け報告ドラフト

セッション9: その他事項に関する討議

セッション10: 閉会セッション

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)
「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」
第2回会合
海外参加者一覧

①IAEA(国際原子力機関)

- 1) Dr. Lumir NACHMILNER (ルミール・ナヒミルナー)
国際原子力機関(IAEA)原子力エネルギー局
廃棄物技術課処理ユニット長

②バングラデシュ

- 1) Dr. Md. Mosharraf HOSSSAIN (モハマド・モシャラフ・ホサイン)
バングラデシュ原子力委員会(BAEC)委員長
- 2) Mr. Shyama Prasad BEPARI (シャマ・プラサド・ベパリ)
科学情報通信技術省(MOSICT)次官代理、兼副科学アドバイザー

③中国

- 1) Mr. FENG Yi(フェン・イー)
中国核能行業協会(CNEA)事務次長
- 2) Mr. SONG Daiyong (ソン・ダイヨン)
中国核電工程有限公司(CNPE)課長

④インドネシア

- 1) Dr. Taswanda TARYO(タスワンダ・タリヨ)
インドネシア原子力庁(BATAN)次官(R&D 成果利用及び原子力科学技術普及担当)
- 2) Dr. Djoko PRASETIJO(ジョコ・プラセティジョ)
インドネシア国有電力公社(PLN)システム計画部長

⑤韓国

- 1) Mr. SHIN Jae Sik(シン・ゼシク)
韓国教育科学技術部(MEST)原子力局 原子力協力課長
- 2) 氏名調整中
韓国水力原子力株式会社(KHNP)幹部

⑥マレーシア

- 1) Dr. Muhd. Noor Muhd. YUNUS (モハメド・ノール・モハメド・ユナス)
マレーシア原子力庁(Nuclear Malaysia)副長官(技術担当)
- 2) Ms. Mazlina HASHIM(マズリナ・ハシム)
マレーシアエネルギー委員会エネルギーリソース・ユニット上級執行役

⑦フィリピン

- 1) Dr. Corazon C. BERNIDO (コラソン・カセナス・ベルニード)
フィリピン原子力研究所副所長
- 2) Mr. Mauro L. Marcelo Jr. (マウロ・ルセーロ・マルセロ・ジュニア)
フィリピン国営電力公社原子力コアグループ長

⑧タイ

- 1) Mr. Manit SONSUK (マニット・ソンスク)
タイ原子力技術研究所(TINT)副所長
- 2) Mr. Samerjai SUKSUMEK (サメルジャイ・スクスメック)
エネルギー省エネルギー政策計画局電力政策部部長

⑨ベトナム

- 1) Ms. CAO Hong Lan (カオ・ホン・ラン)
ベトナム原子力委員会(VAEC)国際協力部上級専門家
- 2) Mr. DOAN The Vinh (ドン・ティ・ヴィン)
ベトナム電力公社(EVN)
原子力・再生可能エネルギー計画プレ投資委員会企画・経済部部長

⑩オーストラリア

今回出席者なし

(別添 3)

アジア原子力協力フォーラム (FNCA: Forum for Nuclear Cooperation in Asia) の概要

1. 概要及び目的

積極的な地域のパートナーシップを通して、原子力技術の平和的で安全な利用を進め、社会・経済的発展を促進することを目指す

2. 参加国

日本、オーストラリア、バングラデシュ、中国、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムの10カ国(この他に IAEA がオブザーバー参加)

3. 経緯

原子力委員会が主催して開催してきた、近隣アジア諸国の原子力関係者が一同に会し、情報交換及び地域協力のあり方を議論する場であった「アジア地域原子力協力国際会議」を発展的に改組し、平成12年4月に「アジア原子力協力フォーラム」が発足した。

<原子力政策大綱における位置づけ(アジア諸国との協力部分)>

我が国が主体的・能動的に協力を行う国・地域は、地政学的にも経済的にも緊密な関係を有するアジアを中心とする。(略) これらの協力に当たっては、相手国の自主性を重んじ、パートナーシップに基づくことを基本として、例えばアジア原子力協力フォーラム(FNCA)、IAEAのアジア原子力地域協力協定(RCA)といった多国間の枠組みや、二国間及び国際機関を通じた枠組みを目的に応じて効果的に利用することが適切である。

(参考)「アジア地域原子力協力国際会議」は1990年、アジア地域での放射線利用や研究炉での利用の推進に貢献するために、日本主導で設立された。1999年、これまでの協力活動全体を総括し、内外との連絡・調整を行う「コーディネーター」を各国から選任し、その下で専門的見地から活動する「プロジェクトリーダー」を各協力分野ごとに選任し、より組織的な協力活動を進めることのできる FNCA 新体制に移行した。

4. 枠組み

① 大臣級会合

各国の原子力を所管する大臣級代表が出席して、原子力技術の平和利用に関する地域協力のための政策対話を行う。なお、大臣級会合を補佐するための上級行政官会合を付設。日本と参加国で交互に毎年 1 回開催。

(開催実績及び予定)

- 第1回大臣級会合：平成 12 年 11 月(タイ)大島科学技術庁長官出席
テーマ：「原子力利用の推進」、「原子力安全」、「地域原子力協力の推進」
- 第2回大臣級会合：平成 13 年 11 月(東京)尾身科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「持続可能な発展と原子力」、「放射線利用分野における協力のあり方」
- 第3回大臣級会合：平成 14 年 10 月(韓国)細田科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「人材養成戦略」、「持続可能発展と原子力」
- 第4回大臣級会合：平成 15 年 12 月(沖縄)茂木科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「放射線・ラジオアイソトープ利用の社会・経済的効果の増大」
「持続可能な発展と原子力エネルギー」
- 第5回大臣級会合：平成 16 年 12 月(ベトナム)棚橋科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「アジアにおける原子力人材育成に関する協力」、「FNCAの今後のあり方」
- 第6回大臣級会合：平成 17 年 12 月(東京)松田科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「アジアにおける原子力人材育成に関する協力」、「科学技術と原子力」
- 第7回大臣級会合：平成 18 年 11 月(マレーシア)平沢内閣府副大臣出席
テーマ：「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」
「原子力エネルギーの広報」
- 第8回大臣級会合：平成 19 年 12 月(東京)岸田科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「原子力エネルギーの平和利用への取組みと FNCA 活動」
「放射線利用を中心とした FNCA 活動」
- 第9回大臣級会合：平成 20 年 11 月(フィリピン)増原内閣府副大臣出席
テーマ：「原子力発電の基盤整備のための協力」
「放射線利用のさらなる促進のための協力」
- 第10回大臣級会合：平成 21 年 12 月(東京)菅副総理兼科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「原子力エネルギー利用促進のためのさらなる協力」
「放射線・アイソトープ応用促進のためのさらなる協力」
- 第11回大臣級会合：平成 22 年 11 月又は 12 月予定(中国)
テーマ及び出席者：調整中

※第 12 回は日本がホスト、第 13 回はインドネシアがホスト予定。

② 「検討パネル」

平成 16 年から平成 18 年の 3 カ年「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」検討パネル(第1フェーズ)を開催し、アジア地域における長期的な環境問題への対応やエネルギー資源の確保の面から原子力エネルギーの役割を評価した。その結果

を受け、第2フェーズとして平成 19 年から平成 20 年の 2 カ年「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」を開催し、1)原子力発電分野における人材養成、2)原子力発電にかかわる安全確保のための基盤整備について議論を行なった。平成 20 年 11 月にマニラで開催された第9回FNCA大臣級会合では、第3フェーズとして平成 21 年から「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」を開催することが決定された。

(開催実績及び予定)

■第1フェーズ

「アジアの持続的发展における原子力エネルギーの役割検討パネル」

- 第 1 回 パネル会合 2004 年 10 月 東京
- 第 2 回 パネル会合 2006 年 1 月 東京
- 第 3 回 パネル会合 2006 年 11 月 敦賀

■第2フェーズ

「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」

- 第 1 回 パネル会合 2007 年 10 月 東京
テーマ:原子力発電分野における人材養成
議長:杉本 純
(独)日本原子力研究開発機構(JAEA)原子力研修センター長
- 第 2 回 パネル会合 2008 年 9 月 東京
テーマ:原子力発電にかかわる安全確保のための基盤整備について
議長:早田 邦久
原子力安全委員会委員

■第3フェーズ

「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」

- 第 1 回 パネル会合 2009 年 7 月 30 日、31 日 東京
議長:伊藤 隆彦
原子力委員会委員、中部電力株式会社顧問
- 第 2 回 パネル会合 2010 年 7 月 1 日、2 日 韓国(開催予定)
議長:尾本 彰
原子力委員会委員、東京電力株式会社顧問
- 第 3 回 パネル会合 2011 年 インドネシア(開催予定)

※2009 年 3 月の第 10 回FNCAコーディネータ会合で第 3 フェーズのTORについて議論。

※パネルは4年目以降も継続することを前提とし、3 カ年目の会合において議論の対象範囲と内容を改めて検討することとした。将来の会合開催地となることについて、中国及びタイから希望が示された。

③ コーディネーターとコーディネーター会合

自国におけるFNCAプロジェクトの実施に責任を持つとともに、協力活動全体を総括して参加国相互の連絡調整を行う役割を持つコーディネーターが各国から1名選任されている。プロジェクトの実施状況を評価・レビューするとともに、全体計画を討議するため、コーディネーター会合を年1回日本で開催。日本のコーディネーターは町末男文部科学省参与。

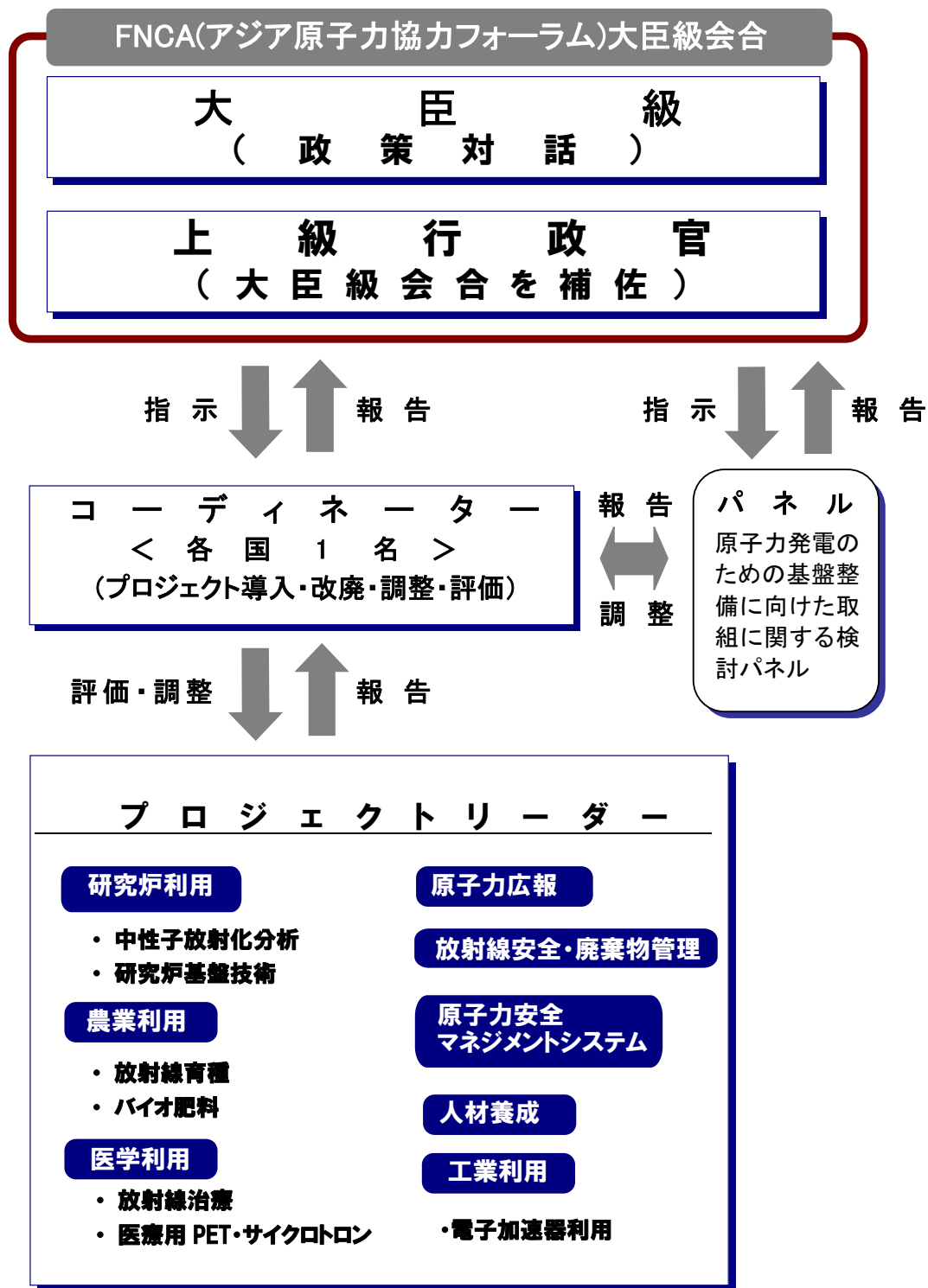
(開催実績及び予定)

- 第1回 コーディネーター会合 2000年3月 東京
- 第2回 コーディネーター会合 2001年3月 東京
- 第3回 コーディネーター会合 2002年3月 東京
- 第4回 コーディネーター会合 2003年3月 沖縄
- 第5回 コーディネーター会合 2004年3月 東京
- 第6回 コーディネーター会合 2005年3月 東京
- 第7回 コーディネーター会合 2006年3月 東京
- 第8回 コーディネーター会合 2007年2月 東京
- 第9回 コーディネーター会合 2008年3月 東京
- 第10回 コーディネーター会合 2009年3月 東京
- 第11回 コーディネーター会合 2010年3月 東京
- 第12回 コーディネーター会合 2011年2月～3月 福井県(開催予定)

④ 個別プロジェクトについての協力活動

FNCAは、研究炉利用、農業利用、医学利用、原子力広報、放射線安全・廃棄物管理、原子力安全マネジメントシステム、人材養成、工業利用の8つの分野で11のプロジェクトを展開している。プロジェクト毎に各国1名のプロジェクトリーダーが任命されている。各参加国のプロジェクトリーダーは、自国におけるプロジェクト活動を実施していく責任を有する。プロジェクト毎に、通常年1回のワークショップ等を開催し、それぞれの国の進捗状況と成果を発表・討議して、次期実施計画を策定する。

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)の枠組み



(別添 4)

会場地図

場所: グランド・ヒルトンホテル(ソウル) Room “Swan”(2 階)

【住所】

〒120-100 ソウル市 西大門区(ソデムング)弘恩洞(ホンウンドン)201-1

Tel: 82-2-3216-5656 Fax: 82-2-3216-7799

【交通手段】

地下鉄 3 号線弘済駅下車(タクシー5 分、徒歩約 15 分)

グランドヒルトンホテル
“Swan”(2 階)

